



カヌー体験で弟子屈の大自然を満喫

近い将来検討したい

移住体験ツアー

今回は初めて、先輩移住者がツアーに同行し、参加者にアドバイスなどを行いました。参加者からは「仕事があれば、すぐにでも移住したい」「先輩移住者のお宅訪問がとても参考になった」といった感想が聞かれました。

3日目は、屈斜路・コタン地区の移住地を見学したほか、同地区に実際に移住された方のお宅を訪問しました。先輩移住者からは、移住後の暮らしぶりや移住に至った経緯などについてお話を聞きました。

初日は医療施設見学として摩周厚生病院を訪問。担当者案内のもと施設内を見学しました。また、物価の確認のためにスーパーを訪れました。2日目は、移住を希望する方や実際に移住された方が多い弟子屈原野・南弟子屈・奥春別・美留和地区を見学したほか、先輩移住者のお宅を訪問。都会と田舎のギャップや、大自然の中で生活する楽しさなどについて伺いました。また、ガイド同行の下カヌー体験も行い、弟子屈の大自然を体感しました。



先輩移住者のお宅を訪問

広域行政への取り組みがスタート

町と釧路市が定住自立圏形成協定に調印



協定書を交わす蝦名釧路市長(左)と徳永町長

町では、7月8日から10日までの3日間の日程で「涼夏！ひがし北海道移住体験ツアーinてしがが」を実施しました。北海道への移住を考えている方に町内を訪れていただき、具体的に検討していただくことを目的に開催しているもので、今回で11回目。信州、関東から2組3人の方が参加しました。

釧路市を中心とした定住自立圏構想で、町は釧路市との定住自立圏形成協定書に調印しました。調印式は6月23日、釧路プリンスホテルで行われ、徳永町長と蝦名大也釧路市長が協定書を交わしました。

定住自立圏構想は総務省が進めている、近隣市町村が連携した広域的な行政の取り組みです。都市機能を有する中心市と周辺町村とが1対1で相互連携し、役割を分担しながら、暮らしに必要な機能を確保することが目的です。2009年12月に釧路市が中心市宣言を行い、昨年は釧路町、浜中町、鶴居村、白糠町、厚岸町と定住自立圏形成協定を結んでいます。この日は町のほかに、標茶町とも協定を結んでおり、釧路市は管内全ての町村と協定を締結しました。

協定書には、医療、福祉、教育、産業振興などの分野でお互いに連携していく内容が盛り込まれています。今後、連携に向けた具体的な取り組みが進められるほか、協定に基づき発足している共生ビジョン懇談会でのビジョン作成を目指していきます。

町の話題



町の話題

町の話題



町の話題

エコパスポートで環境に優しい旅を

観光交通実証運行スタート



出発式の後、関係者に見送られ摩周湖バスの第1便が出発(上)
川湯温泉駅前を出発する屈斜路バス(左)



今年も、10月10日(月)までエコパスポートの販売を行います。エコパスポートは、JR摩周・川湯温泉両駅内のエコパスポート・フリーのほか、(株)ツーリズムテック(川湯温泉1)でも取り扱っていますので、皆さんもぜひ、利用してみませんか。

今年も、10月10日(月)までエコパスポートの販売を行います。エコパスポートは、JR摩周・川湯温泉両駅内のエコパスポート・フリーのほか、(株)ツーリズムテック(川湯温泉1)でも取り扱っていますので、皆さんもぜひ、利用してみませんか。

弟子屈町地域公共交通活性化協議会会長・小磯修二釧路公立大学長)が行う、摩周・屈斜路環境にやさしい観光交通実証運行(弟子屈2daysエコパスポート)初日の7月16日、JR摩周駅前で行われました。出発式には、徳永町長と根津文博摩周湖観光協会会長など関係者30人が出席。観光交通実証運行の開始を祝いました。



東星建設による道路整備



作製したプランターボックスの前で

縮役、近藤建設(株)(近藤明代表取締役)、(株)熊谷工務店(熊谷和則代表取締役)の皆さんが、木製のプランターボックスを作製し、町に寄贈しました。横長のプランターが2個入るサイズのもの、各社20個ずつ作製。国道243号・391号(鈴蘭・摩周)の両側に飾られ、観光客をお迎えしています。

地域の役に立ちたい

企業による社会貢献活動



大成ロテックによる道路整備



今道建設工業のグラウンド整備

大成ロテック(株)道東事業所(齋藤隆所長)の皆さんが6月21日、町道銚別川左岸沿線など各町道において、道路の舗装・修繕など環境整備を行いました。同社では「弟子屈町に事務所を置いて40年以上になる。これからも町の一員として活動したい」と話していました。

6月23日と27日には、(株)今道建設工業(今誠代表取締役)の皆さんが、川湯小学校のグラウンド整備を行いました。除草や転圧、傾斜の修正など、丁寧な作業を行っていました。また作業の見学会も行い、同校の児童が普段近くで見ることのない大型重機を見学したり、作業内容の説明を受けたりしました。

6月30日には、東星建設(株)(山村五十三代表取締役)の皆さんが、屈斜路コタンで生活道路の整備を行いました。グレーダーやブルドーザー、タイヤローラーなどの大型機械を使い、丁寧に道路をならしていました。また、(株)ホクセイ(桐木茂雄代表取締役)、近藤建設(株)(近藤明代表取締役)、(株)熊谷工務店(熊谷和則代表取締役)の皆さんが、木製のプランターボックスを作製し、町に寄贈しました。横長のプランターが2個入るサイズのもの、各社20個ずつ作製。国道243号・391号(鈴蘭・摩周)の両側に飾られ、観光客をお迎えしています。